

平成22年度事業報告

I 概要

平成22年度は、その前年より実施され9月まで継続された政府による経済対策や車載機メーカー各社の積極的な商品展開などの効果が相俟って、事業の太宗となる VICS 対応車載機の出荷は、第1四半期から四半期毎の歴代台数を更新するなど当初の予測を大幅に上回る台数で推移した。

その結果、年度末には、本年3月11日に発生した東日本大震災の影響が若干出たものの、当初の予想を54万台上回る過去最高の334万台となり、累計出荷台数も3月には3,000万台を突破するに至った。

こうした中、将来の VICS を担う新たなシステムの構築を目指す「次世代 VICS プロジェクト」も順調に検討が進んだ。同時に、産学官から幅広く意見を伺うべく「第IV期 VICS 高度化研究委員会」を2回開催し、サービス内容の詳細検討、マルチメディア放送の運用規格、車載機仕様等の議論が展開された。

また、次世代の ITS として新しい電波ビーコンの役割が期待される「ITS スポットサービス (DSRC)」が、全国の高速道路を中心に3月末から開始され、また、光ビーコンによる「DSSS (安全運転支援システム)」のパイロット事業も開始されるなどの関連する動きもあった。この間、財団では、これらの新しい動きを支援するための技術開示を実施するとともに、次年度以降の車載機の普及促進に向けた準備を行った。

当財団には、責務として、普段から道路交通情報の安定的かつ継続的な提供の努力が求められて来たところであり、昨年度は VICS のサービス開始15年目を迎えたこともあり、これまでの情報提供状況を総点検して、問題点や課題の洗い出しを実施した。

また、全国の道路管理者・交通管理者等の協力を得て、引き続き提供情報の改善を行うなど、必要な対応を取った。

加えて、災害時における業務の継続性の確保、更には災害情報の提供等の方策の検討も行って来たところであるが、その成果の一環として、東日本大震災においても、京橋センター、第2センターとも大きな被害も受けず、情報を提供することができたが、一部課題もあり次年度に向け整理検討した。

加えて万全を期すために、改めて緊急時における体制強化を図るなど臨機の対応も実施した。

また、東日本大震災では、災害対策用に整備していた可搬型 FM 放送設備2式を被災地の自治体に提供することとし、準備を進めた。

周知広報活動としては、計画的に認知向上活動を実施するなど広く一般の方々に VICS の普及促進を図るための活動などを展開した。

このほか、財団法人日本道路交通情報センターからの受託事業である第三者情報提供事業も順調に実施された。

また、公益法人改革への対応については、他法人の動向を調査しつつ新法人への移行に係る事務手続きの具体的な準備作業を行った。

Ⅱ 事業計画の実施結果

平成22年度の事業計画遂行の結果について、主要な事業別に詳述する。

1 道路交通情報の収集、編集及び提供事業

(1) 安定かつ継続したVICS情報提供サービスの確保

- ① 大規模災害対策として、京橋センター罹災時を想定した総合運用基準及び手順に基づき、定期的な訓練を実施した。特に今年度は実際の運用を想定した24時間の長時間訓練を実施し、第2センターでの現実的な運用環境における課題と対応をまとめた。また9月には、初めてNHKとの合同災害対応訓練を実施した。
- ② 東日本大震災時には、災害時対応基本計画に基づき、常時より大規模災害に備えた対策を進めていたこともあり、京橋センター、第2センターとも大きな被害を受けず情報送出手続きが継続され、一部のFM多重放送所において一時的に放送が中断されたが、大きな混乱はなかった。加えて、暫くの間、休日を含め緊急対応が可能となるよう臨機の対策も実施した。
- ③ 被災地におけるサービス確保をめざし、昨年度整備した緊急時対策用の可搬型FM放送用設備2式の機能維持に努めるとともに、運用マニュアル、開局マニュアルを整備し、運用訓練を実施した。
- ④ 次世代VICS用システムの構築等を考慮し、京橋センター設備の更新時期を延期することとしたため、その間のセンター設備の保全対策等の事前準備を実施した。
- ⑤ FM多重放送所のIP網の信頼性向上対策として回線の光化を推進し、衛星バックアップ回線の在り方の検討を行った。

(2) 提供情報の内容充実と精度向上

- ① VICSの提供情報の品質を全国の交通管理者及び道路管理者と連携して毎月調査・分析し、現状の課題を共有するとともに、実施可能な改善方策について検討・提案し、各情報源の年次更新時に品質向上と情報量拡大に努めた。
- ② 昨年4月に活動開始した「情報提供改善推進」は、規制情報件数最大値の

見直しや、情報未提供地区の発見・対応、情報の優先順位の見直しなど様々な成果をあげた。また一部課題については、道路管理者、交通管理者とも共有し一層の改善に向け引き続き活動を続けていくことになった。

- ③ 新年度の VICS リンク・データベースの更新を計画的に実施し、情報源側で円滑な年次更新作業が実施されるよう適時情報を交換し、情報源の対応に準じて VICS センター設備の年次更新を実施した。
- ④ FM 多重放送の多重変調度改善について、引き続き検討を進め、関係機関との調整を行った。加えて全国の受信状況の実態把握を適宜行った。また NHK 東京局の東京スカイツリー移転に伴い、VICS 東京局の無線設備の設置場所も移設することとし、電波法に基づく変更の申請を行い2月に許可された。
- ⑤ 関係機関と連携して、既存の駐車場情報提供システムの利活用を検討し、駐車場の情報収集及び提供の維持・拡大に向けた提案を実施した。

2 普及促進事業

(1) VICS 対応車載機の普及促進

- ① ITS スポット (DSRC) 及び DSSS のインフラ整備に併せて、これらに対応した新型車載機を中心に普及促進キャンペーンの企画を関係省庁との協議の上、立案した。実施は、平成23年度に行うこととし、そのための普及促進費として5億円を引き当てた。
- ② 前年度実施した商用車の3メディア実証実験で得られた燃費改善効果の周知を図り、カーリース事業者への VICS 対応車載機搭載を促進した。成果を10月に行われた ITS 世界会議釜山で論文発表した。

(2) 周知広報活動

- ① 年間の広報及び認知度向上計画の策定を行い、関連部門と協働にて効率的かつ効果的な広報活動を8つの施策にもとづき強力的に推進した。その結果、VICS の認知度が、43%から46%へと3ポイント向上した。
- ② リニューアルしたホームページの一層のアクセス数向上をめざし、理解度促進、共感度及び好感度獲得のために、前年度に引き続き、積極的な施策を展開した。
- ③ 大型連休などの渋滞が予想される時期をターゲットに、パンフレットの配布やホームページへのアクセスを誘引する活動を SA・PA、道の駅やショッピングモール等で実施した。
- ④ 国内外の関係機関・関係団体からの訪問者に対するプレゼンテーションの内容を見直し、ITS スポットサービス、DSSS 等の、新サービスを反映した改版を行った。また、広く一般ユーザーの VICS サービスに対する理解を得るため、ヤング女性を中心とした一般者の見学会を実施した。

3 調査、研究及び開発事業

(1) 次世代 VICS についての調査及び研究

① 次世代 VICS 構想の具体化の推進

前年度に引き続き、マルチメディア放送の活用を主に次世代 VICS のサービスの詳細を検討し、高度化研究委員会で審議を経て定義した。また、サービスの実現に必要な関連コンテンツの入手方法や条件等を調査、検討し、VICS センターでの加工や編集についても検討を行った。

② プローブ情報活用に関する調査・研究

i) 民間で収集したプローブ情報の収集の仕組みを検討するとともに、道路管理者及び交通管理者と連携して民間プローブ情報の活用化研究を引き続き実施した。

ii) プローブ情報の提供に相応しい VICS リンク体系をとりまとめ、仕様の検討に着手した。

③ マルチメディア放送についての調査・研究

i) 前年度に引き続き、電波産業会 (ARIB) 等で行われているマルチメディア放送の技術的要件の調査研究に参画し、将来の放送メディアとして相応しいメディアの性能・機能の具現化の検討を進めた。

ii) メディア・車載機仕様作業班を立ち上げ、車両・車載機メーカー 17 社とともに検討を行い、アプリケーションレイヤーの規格化の方向性、骨子を取り決めることができた。

iii) 併せて、マルチメディア放送の制度化の動向等の把握に努め、スケジュールの確認、事業性の確保の検討など参入に向けた準備を行った。

④ 次世代 VICS を実現するために必要な標準車載機の仕様・要件定義と技術規格を、上記のメディア・車載機仕様作業班において検討した。

⑤ 次世代 VICS のセンター設備の要求定義等を取りまとめるに当たり、次世代 VICS サービスの検討を踏まえるなど準備作業を開始した。

(2) ITS に関連する海外技術、制度に関する調査

① 次世代 VICS の調査・研究に資するため、VICS 及び ITS に関連した海外での道路交通情報を活用可能な端末と仕組み等の動向を把握した。

② 車載機に纏わる将来メディアや IT 関連技術の動向の調査については、昨年末より、急激に増加したスマートフォンのカーナビ機能について、技術調査と現行カーナビとの差異分析を実施した。

(3) 国際標準化に関する活動の推進

① ISO/TC204 ITS 標準化委員会・技術委員会への参加と VICS の国際標準化反映活動を実施した。

(4) 市場動向に関する調査

① VICS 対応車載機の残存数の推定を行うとともに、PND 等の新しい端末機の市

場の動向を定期的に把握するため、車載機の市場動向調査を実施した。

- ② また、定期的にユーザーの VICS 認知度・理解度、VICS 対応車載機の購入意向、VICS サービスの満足度などを調査し、実施した施策の評価と次年度の戦略策定に反映した。

4 知的財産権等の維持・管理

- ① 次世代 VICS 関連の実施に必要な不可欠な知的財産の適切な確保を行うべく規程の整備に着手した。
- ② センター 内に設置した「知的財産管理委員会」を定期的に開催し、保有特許の適切な管理を実施した。
- ③ 昨年度実施した技術資料の新版調製を機に、改めて技術開示契約の管理体制を見直した。
- ④ 12月には DSSS に関する技術開示を実施し、併せて関連する技術開示資料を一部改訂して配布した。

5 国内外関係機関・団体との交流及び標準化の推進

- ① 韓国で昨年10月に開催された ITS 世界会議に出展し、VICS 機能や効果をジオラマやシミュレーターを使って一般の来場者に訴求した。
- ② 関係団体・関連委員会等へ参画するとともに ITS に関わる主要テーマの動向を把握した。また、安全運転支援関連サービスの実用化の要件に対して課題を協議し、利用者本位の対応策について意見調整を行った。

6 業務管理その他目的達成のための事業

(1) 財団の運営基盤強化に向けた見直し

- ① 公益法人改革に基づく、関連団体、各省庁からの情報収集、意見収集などを引き続き実施するとともに、定款案の作成、申請書の準備などの新法人への移行に向けた基本的な作業を実施した。
- ② 次世代 VICS プロジェクト推進に向け、必要人材の適切な確保を行い、併せて早期戦力化に向けた研修の継続的实施し、加えて e-ラーニングの新規導入など内容の充実を図った。
- ③ 次世代 VICS の事業化等を睨み、中長期的な観点からの財務基盤強化策の検討を開始した。
- ④ 対応車載機の出荷台数が、当初予定より54万台多く出荷されたことを受け、収支相償の観点から、台数当たり200円を各社に返還することとし、3月の理事会で決定し実施した。併せて、年間定額をいただいていた技術開示定額料の廃止及び初年度技術開示定額料の大幅引き下げを実施した。

(2) VICS 情報の第三者情報提供事業に係る受託業務

- ① テレマティックス事業など市場動向に対応した VICS 符号情報活用の体系化と施策の検討を行った。
- ② 情報提供の信頼性向上のために、事業者提供システムのバックアップシステムの提案を実施した。

Ⅲ 事業計画遂行のための会議の開催

(略)